

# 令和5年度 イチオン活動(結果報告)

西山手高齢者生活支援センター

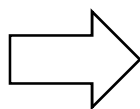
## 【イチオン活動の概要】

西山手の担当圏域は地理的に南北に長く面積も広く実態把握しにくい特徴がある。

孤立や孤独となっている人は当事者発信がない為、家族や地域への啓発が重要となる為、行事やイベントを通じて包括の啓発を行っていく。

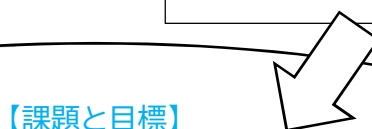
### 【キッカケ】

包括へつながった際に、アウトリーチを含む早期的な対応が必要なケースがあったため。



### 【現況】

地域行事等の参加時には、必ず啓発活動を行っているが、包括の役割や機能を十分理解して頂けていない。



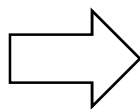
### 【課題と目標】

地域や相談者（高齢者・家族）が包括の役割や機能を知り、早い時期に相談ができる。



### 【対象者】

- ・高齢者
- ・高齢者の子や孫世代
- ・地域住民



### 【取り組み体制】

- ・地域に役割をもって頂く。
- ・センター内事業担当者やコーディネーター等協働で活動する。



### 【具体的な取り組み】

地域活動者からの相談や依頼に対して、包括が地域と協働にて活動。ミニ講話・アンケート・啓発チラシによる周知を行う事により、顔の見える関係作りを行いながら啓発を行う。その中で地域ニーズ把握や継続した社会参加のアプローチを探る。

### 【スケジュール】

- 4/8 寿会スマホ教室（老人会）10人
- 4/26 介護予防講座（三条自主活動グループ）17人
- 5/14 花とインテリアのマルシェ（大原町）60人  
包括の認知度アンケート・ミニ講座
- 7/21 ボッチャ体験会（清水町）10人
- 8/25 介護予防講演会（奥山地区マンション自治会）6人
- 9/11 介護予防講座 山手小学校区 30人
- 11/3 奥池メルカリ部フリマ 50人以上
- 11/17 ①フレイル講座（三条地区住民）17人
- 11/19 菊花展&秋のつながるフェスタ 58人 チラシ・認知症啓発ポスター・アンケート
- 1/19 ②フレイル講座（三条地区住民）
- 2/11 地域自主防災訓練 雪まつり（旧三条校区）



## 【取り組んだ事及び結果】

### ① 包括の啓発について

- ・ 包括の役割やその機能の周知
- ・ 予防的な相談や認知症に関する相談
- ・ 地域ごとの行事に参加、ミニ講話
- ・ 「花とインテリアのマルシェ」と「秋のつながるフェスタ」の企画及び参加
- ・ 地域の企業や活動者と協働で実施
- ・ 多世代交流の場として幅広い世代の参加



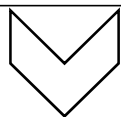
### ② 早期相談の支援体制

- ・ 包括職員と顔の見える関係作り
- ・ 子や孫世代からの相談や地域の見守りや気づきによる発見
- ・ 早期発見できても、支援を求めず予防的介入が困難な場合には見守り継続
- ・ 住民の自主活動グループから認知症について学びたいとのリクエストにより  
認知症疾患医療センターの相談員をまじえて  
認知症相談会及び茶話会を検討中



## 【課題】

- ① 男性高齢者の地域社会からの孤立や孤独
- ② 包括職員が地域に受け入れられ「安心」して相談頂ける体制
- ③ 地域が主体的に継続的に活動できるような関わりの継続



## 【次年度計画に向けて】

- ① 孤立や孤独解消に向けて男性を対象とした仲間・居場所づくり
- ② 様々な相談に対応できるような体制構築
- ③ 地域のニーズやタイミングに寄り添った地域づくり

## 令和5年度 イチオシ活動(結果報告)

### ● 今年の『イチオシ活動』としたきっかけ、背景と課題は…

昨年度は誰もが集える・繋がる場所作りを目指し「さくらカフェ」の活動に力をいれた。結果、集う人も場を作る人も誰もが気軽に参加できる場所として周知ができた。一方で、積極的に出てこれない人、出たくない人、出れなくなった人が孤立し、参加の機会を逃しているのではないかという課題が残っていた。

特にマンションは住民同士のつながりが希薄。  
マンションの構造も住民同士が顔を合わせない作りも多い。  
マンション住人も気になる人がいても話せない。→ 個人情報

### ● 目標

つながりのネットワークで孤立化予防 ～アウトリーチでつながり作ろう～

### ● 取り組み体制

マンション単位や小地域で取り組むことで住民同士のつながりを深める！  
見守りの仕組みや支援体制をつくることで孤立化予防を目指す！

### ● スケジュール

対象マンション選定→R5年度内に3ヶ所 相談会or出前講座実施。3ヶ月に1回の地域巡回。

### ● 具体的な取り組み体制

#### (1) 定期巡回訪問強化

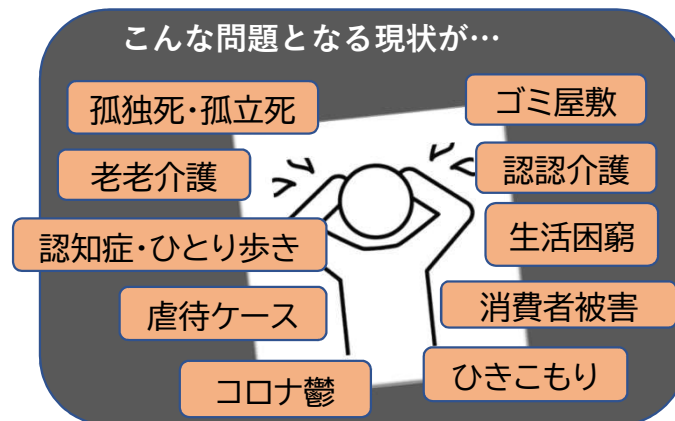
H28年より取り組んできた定期の地域巡回を強化し巡回リストの見直しをおこなう。  
民生委員と協働して現状の確認を実施。

#### (2) マンション単位での相談会や出前講座の実施。

マンション理事会に出前講座や相談会の働きかけを実施。マンションごとのニーズ把握。



東山手高齢者生活支援センター



このままでは繋がりがなくなる！！





# 令和5年度 イチオシ活動 報告

東山手高齢者生活支援センター 

## ● 取り組み内容

- (1) 高齢者が多く相談件数の多いマンション、マンションに集会室等がありマンション内で集える場所があることを条件に3ヶ所のマンションを選定。  
3ヶ所のマンションにアプローチを行うが1件のマンションは理事会で却下、2ヶ所のマンションを対象に活動開始。

ケース①マンション内に民生委員がおり、地域の老人会を巻き込んで集会室で体操教室等を開きたいと相談あり一緒に活動を開始。

プログラムの内容は住民主体。市販の体操DVDを流し全体で体操後、ゲーム、介護予防担当、三職により出前講座を時折開催しフォロー。

ケース②マンション理事会にアプローチ、9月にマンション理事会にて主旨を説明。10月に住民向け講座を開催。講座開催後、マンション理事会役員が中心となり毎週1回いきいき100歳体操を実施。短時間ではあるが集える場所作り開始。

- (2) 巡回リストを見直し、現状の確認。民生委員のブロック会等に出席し情報を共有。



## ● 結果

- (1) ケース①: 参加者をマンション住民に限定せず、町内の老人会も参加している為、より多くの参加があり、自主的な互助グループとしてたちあがった。センターからも介護予防担当職員や三職種スタッフによる出前講座等を時折開催してフォローを続けている。月2回実施5月～1月参加人数延べ182名

- (1) ケース②: 理事会でシニアクラブとして正式に承認される。マンション住民が声をかけ合い、参加人数は毎回増えている。他の曜日の開催を希望する声もあり曜日を増やすことも検討中。毎週1回開催 10月～1月 参加人数延べ78名  
定期的にマンション住民を対象とした講座の開催希望あり。マンション住民による互助が高まっている。



- (2) 巡回リスト見直しを行い、既存の方については、ほぼ終了。新たな対象者を整理して民生委員さんと巡回訪問している。

- 課題  
・継続支援していくためのセンターの体力(人材)不足!... コンシェルジュ機能的なものが欲しい...  
・マンション内で集うきっかけ作りはできたが、孤立化予防の取り組みにつなげていない。



精道高齢者生活支援センター

## 令和5年度 イチオシ活動（結果報告）

## きっかけ・背景

- ①令和3年度までは、福祉センターのみでの「さわやか教室」開催であったため精道圏域の利用者が少なく、精道圏域内の自主グループ創設に繋がりにくかった
- ②福祉センターが圏域内の真ん中に位置するが交通の便が悪く、東西の地区の利用者からは遠い為、近くでの開催であれば参加できるとの声が聞かれた

令和4度のイチオシ活動として始動

『身近な地域でのさわやか教室・介護予防教室を開催していく』

## 昨年度の活動結果(現状)

- ①自主グループ集い場「縁」が実現
- ②出張講座計10回実施  
(平田町・春日町・茶屋之町・西蔵町・南宮町・宮塚町)

## 見えてきた課題

- ①高齢化率が高く集う場所もない出張講座未実施の地区がある
- ②元々ある地域のグループ（生きがいデイ等）に参加者が固定されていた
- ③リーダーの担い手がいない

目標を再設定【令和5年度のイチオシ活動】

課題のある地域への働きかけと、既存グループを学びの場へ

## 取り組み体制

- ①さわやか教室 出張型
- ②介護予防の勉強会の開催支援

## 対象者

- ・社会参加していない高齢者
- ・センターが遠くて行けなかった高齢者
- ・集う場のないエリアなど出張講座が未実施地区の高齢者

## 取り組み① さわやか教室-出張型-

- ・介護予防に対する意識が高まり、自主グループが誕生した。
- ・住民同士のなじみの関係が形成できて、終了後自主グループ化に向けての話し合いが進行中。
- ・教室の終了後、複数の参加者からわが町で開催したいという強い希望があり、R6年度にさわやか教室開催することが決まっている。



## 取り組み② 介護予防の勉強会の開催支援

今年度は10か所で介護予防の勉強会の開催を支援し、介護予防の普及啓発を行うことができた。様々なトピックスを用意したことで、今までと違った層の集客に繋がり好評を得た。また運動以外のニーズがあると把握ができた。



## &lt;見えてきた課題&gt;

できた自主グループが継続しにくい

前期高齢者の参加が少ない

運動だけでなく栄養  
口腔ケアのニーズがある

# 令和5年度 イチオン活動(結果報告)

潮見高齢者生活支援センター

## 【イチオン活動の概要】

芦屋市全域において、認知症の当事者、家族が集まる場所はあるが、認知症に問わず介護を行っている介護者が集まり話す場がない。とくに潮見圏域では高齢化率が高く、介護に追われ介護者が孤立しているケースが多い。

### 【キッカケ】

居宅介護支援事業所の介護支援専門員より認知症に限らない介護者が集まって話せる場があればと要望があった。

### 【現況】

認知症の家族の会はあるが、認知症に限らない介護者が集まる場がない。

### 【課題と目標】

課題:介護を行う介護者の負担が大きいこと、介護に追われ介護者の孤立が生じている場合が多い。  
目標:気持ちを吐き出せる場となり、介護者の心の負担が軽減できる。

### 【対象者】

介護でしんどい思いをしている人  
(介護者、地域住民、民生委員等)

### 【取り組み体制と具体的な取り組み】

11/22に喜楽苑会議室にて1回目を開催、参加者は男性2名だった。予定していた時間内では足りない位話が続き、「気持ちを吐き出す場」としては少人数の方が話しやすいように思った。

2回目は2月に開催を予定。さらくえん居宅・潮見包括で関わる人を対象に声かけを行う。この開催でどの位人が集まるか、女性・男性の比率はどうかを見て次年度計画を作成する。

### 【スケジュール】

7月:居宅アナウンス  
8月:居宅CMからの参加者・ピックアップ  
開催日の調整など  
9月:お知らせ(チラシ)作成  
10月:1回目プレ開催→11/22(水)に開催  
11月:振り返り・検討  
12月:2回目プレ開催のお知らせ(チラシ)作成  
1月:2回目プレ開催→2/23(祝)開催予定  
2月:振り返り・検討  
3月~:R6年度の計画作成



## 精道高齢者生活支援センター・基幹的業務担当の活動

## 令和5年度 イチオシ活動 4包括のバックアップと持続可能な環境の検討（結果報告）

## 1. 背景 ～地域包括を取り巻く現状 令和3年度活動報告より抜粋～

## ・芦屋市の高齢者人口と高齢化率

	令和5年	令和10年	令和15年	令和20年	令和25年
高齢者人口	27,683人	28,914人	30,765人	33,222人	34,362人
高齢化率	27.80%	29.68%	34.89%	39.14%	42.15%

## ・増え続ける相談件数

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
総合相談 継続（新規）	11,373件 (970件)	12,559件 (956件)	14,862件 (1,057件)	14,503件 (1,032件)
虐待通報	73件	73件	89件	86件
ケアマネジャーからの 相談延べ人数（実数）	88件 (75件)	98件 (83件)	192件 (155件)	188件 (130件)

## ・高齢者人口と三職種及びSVの配置人数

	令和5年	令和10年	令和15年	令和20年	令和25年
東山手高齢者人口 （配置人数）	6,275人 3.5人	6,762人 3.5人	7,353人 4人	8,052人 4.5人	8,259人 4.5人
西山手高齢者人口 （配置人数）	5,772人 3.5人	6,029人 3.5人	6,521人 3.5人	7,071人 4人	7,298人 4人
精道高齢者人口 （配置人数）	9,241人 4.5人	9,772人 4.5人	10,575人 5人	11,702人 5人	12,367人 5.5人
潮見高齢者人口 （配置人数）	6,395人 4人	6,351人 4人	6,316人 4人	6,397人 4人	6,438人 4人

## 5. 効果と課題

高齢者人口・相談件数の増加や介護支援専門員不足など、包括への業務負担が増加している。包括の職員がモチベーションを維持しながら日々の業務をこなすためにも見える形での結果を出すことが大切である。業務多忙で動いている各包括からの意見集約を元に業務（日々の業務・会議等）を見直す機会が持っている。取り組みにおいて課題の整理・分析が行えていないのが課題。次年度においては会議の持ち方や会議体の見直しを優先的に行う。

## ・介護予防ケアマネジメント（予防プラン作成）の件数

	令和1年	令和2年	令和3年	令和4年
東山手直営・ 委託件数	1,162件 748件	1,198件 823件	1,209件 958件	1,216件 905件
西山手直営・ 委託件数	1,710件 791件	1,559件 1,033件	1,584件 1,099件	1,740件 1,098件
精道直営・ 委託件数	2,400件 901件	2,524件 838件	2,769件 688件	2,853件 780件
潮見直営・ 委託件数	1,297件 1,279件	1,425件 1,215件	1,464件 1,173件	1,314件 1,509件

（費用の面、手続きの煩雑さ、人手不足の現状から居宅介護支援事業者側も委託ケースを引き受けにくくなっている。）

## 2. 目指す方向

- ・4センターの職員がバーンアウトすることなく、活動が継続でき効率的かつ効果的な事業運営を行える。
- ・あしやの5年、10年先を見越した仕組みづくりを検討する

## 3. 取り組み内容

- ・各センターから聞き取りを行う  
①業務遂行上の課題抽出 ②現在行っている創意工夫点③これから目指す姿
- ・各部会（三職種の部会）の聞き取りを行う  
①各部会で考える地域課題 ②これから目指す姿
- ・聞き取りの結果を各部会・包連会や支援センター連絡会等で共有し、協議・検討

## 4. 聞き取り内容と取り組み

- ・「委託」を受けてくれる事業所がない→保健師部会・主任ケアマネ部会合同部会居宅介護支援事業所との座談会開催→介護予防ケアマネジメント業務の書類等の簡素化案を作成し、市と4センターのセンター長で話し合い（12/26）
- ・各会議体の在り方の見直し →包連会から縦レビュー会議事務局会議に提案
- ・4包括内で行っている会議体の在り方の見直し、多団体主催の会議の参画の在り方の見直し等を今後引き続き検討。
- ・「委託ケース」増等も含めて居宅介護支援事業所の協力要請方法等検討